地域計画のブラッシュアップへ

アンケート調査や年４回の検討会

日野町農委会



西桜谷、東桜谷地区の農業組合長を集め開いた、地域計画策定に係る説明会

【滋賀】日野町農業委員会（加納文弘会長）は、年4回地域計画検討会に出席し、地域計画の策定とブラッシュアップに取り組んでいる。

町では、地域計画策定の支援要望があった各地区、集落、農業組合での協議に農業委員・農地利用最適化推進委員が出席し、説明や助言を行いながら58件の地域計画を策定した。農業組合単位で計画を作成するケースが多く、町農林課、農業委員会事務局と協力し策定の支援を進めた。

農業委員・推進委員が会議開催の呼びかけや、会議のファシリテーターとしての役割を担ったことで、地域計画の作成がスムーズに行われた。

地域計画策定後は、集落内で随時更新、ブラッシュアップが進むよう、年度当初の農業組合長会議においてブラッシュアップの案内を行った。年4回の地域計画検討会には、農業委員会組織からも出席し、変更される計画への意見提供などを行っている。

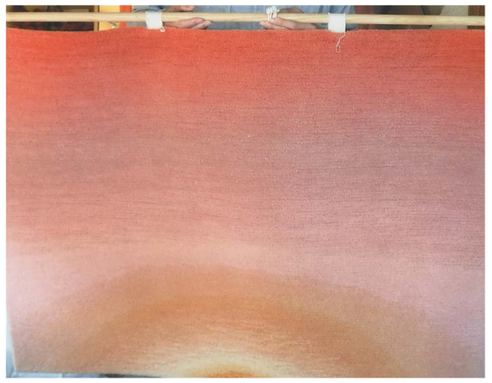
また、地域計画が策定された農業組合宛てに地域計画検討会で作成した「地域計画の取り組み状況についてのアンケート」を送付し、計画の変更を要するか、変更する場合の支援希望についてアンケート調査を実施している。

（福井かれん）

日本茜の色彩・文化を後世に

自ら栽培し魅力発信

忠岡町の杉本一郎さん



日本茜の多様な色彩で表現された夕暮れの「茜空」（制作は京都府の桐織物工場）



リンゴ箱内で日本茜を栽培。「根が下に伸びやすく、木製なので水分を含みやすいのも良い」と杉本さん

【大阪】忠岡町の杉本一郎さん（74）は、つる性の多年草「日本茜（あかね）」の栽培と魅力発信に取り組んでいる。

繊維会社に勤めていた杉本さんは、日本古来の緋（ひ）色を生む日本茜の色彩と文化が忘れられつつあることに危機感を抱いていた。2009年、滋賀県守山市の野洲川河川敷で自生株を見つけたのを機に栽培を開始。栽培の教本もない中で試行錯誤を重ねながら、同町内のほか、隣接する岸和田市や和泉市の遊休農地も借り受け、現在は約50㌃で栽培する。

また、泉州地域で盛んな毛布やタオルなどの繊維産業とも連携。昨年には大阪製ブランド製品の生産者として大阪・関西万博にも出展し、国内外の来場者に向けて染色作業を実演した。

杉本さんは、日本茜の色を古来の緋色だけでなく、黄や橙（だいだい）、桃色など多彩な色が重なり合う「茜空」として表現している。

「大事なのは温故知新。未来に日本茜を残すため、固定観念にとらわれない多様なアプローチで魅力を発信していきたい」と話す。

（沼田湧悟）

公務員からの新規就農！

移住者の茂山昇平さん

県内有数のトマト産地・曽爾村

【奈良】高原野菜のブランド化が進む曽爾村で、トマト8・2㌃やホウレンソウ8㌃を栽培するのは、昨年4月に新規就農した「SHIGEYAMA FARM」代表の茂山昇平さん（38）だ。

茂山さんは、前職の地方公務員時代、農業者の支援に携わる中で、農業の魅力に惹（ひ）かれ、自らも地域を盛り上げたいとの思いから就農を決意。栽培技術や経営管理などを学ぶため、なら食と農の魅力創造国際大学校に入学した。

当初からトマトに関心があり、県内有数のトマト産地である曽爾村を研修先に選んだ。

受け入れ先でお世話になった、師匠でトマト農家の寺前健史さん（64）や、同村農業委員会の協力を経て、農地を借りることができた。

また、同村の空き家バンク制度や、移住に関する支援を活用した。

「師匠の寺前さんをはじめ、地元の方々からの励ましの声が活力となっている。期待に応えられるように、日々精進している」と茂山さんは話す。

（木村将史）



「今後は、新規就農をめざす人の相談に乗れるような存在になりたい」と話す茂山さん

町内で唯一の酪農家へ

ジャージー2頭と新規就農

白浜町　尾上愛梨さん



2頭のジャージー牛（サクラとアマナ）と笑顔の尾上さん

【和歌山】「高校在学中にホルスタインの『エアロ』と出会い、酪農の魅力に引き込まれました」と就農のきっかけを語る尾上愛梨さん（24）。

兵庫県立農業高校を卒業後、白浜町のテーマパークで4年半勤務。酪農への思いが募り、人が優しい町内での就農を決意した。

就農に関する情報を集める中で、熊野牛を育て家になるとともに、昨年末には認定新規就農者を取得した。

尾上さんは「サクラとアマナが12月と2月にそれぞれ出産予定なので、加工施設の準備を進めていきたい」と話す。

（鹿嶋俊宏）

@AEROFARM_5865

インスタグラムの二次元コード

小学生が「ふるさと」発見

生き物調査で森と川の恵みを実感

京丹後市



小西川で生き物を探す児童

【京都】京丹後市立いさなご小学校が取り組む「ふるさと発見隊」の現地学習が6月8日、同市峰山町の小西川で行われ、4年生44人が参加した。

児童らは、森が育んだ豊かな水が川を流れ、農業用水として田畑を潤す仕組みや、治山施設の役割を学んだ後、川に入って生き物調査に挑戦。上流でサワガニ、下流でカワムツやシマドジョウなどを次々と採取した。

水質調査も行い、身近な里山や農業を支える河川を良好に維持管理することの大切さを学びながら、豊かな生態系に触れて大喜びしていた。

この現地学習は、京都府の「ふるさと・棚田支援事業」を活用して実施されている。次回は7月下旬に、京丹後市峰山町の二箇地区で行われる予定だ。

（会沢仁史）

青年委員奮闘中

▷43

神河町　山口貴士農業委員



山あいの水田で、笑顔の山口さん

【兵庫】神河町長谷の山口貴士さん（41）は、山間部の集落で、妻の奈央さん（42）とともに広告代理店兼コワーキングスペースを経営しながら農業を営んでいる。

もともと姫路市の出身で高校卒業後に上京し、社に就職し、約10年間の東京生活を経て帰郷。結婚を機に「豊かな自然環境で自分たちらしく暮らしたい」と、2014年に神河町に移住。空き家になっていた奈央さんの祖母宅で「第二の人生」をスタートした。

自宅とオフィスは、西日本最大級のススキ草原「砥峰（とがみね）高原」のふもとにあり、水稲など約30㌃を栽培、24年からは農業委員も務めている。

息子2人を育てつつ夫婦で村の活動にも参加する山口さん。「山あいの環境は、山からの冷たい水でおいしい農作物ができる。農業委員としてこの美しい景色を守りながら、楽しいことを生み出して地域を元気にできれば」と笑顔が輝いた。

（山口昭彦）

山間部の集落で第二の人生を！

美しい景色守り地域を元気に

高校・大学と同じバンドで奈央さんと活動していた。

大学院修了後は広告会

近畿

近畿総局
和歌山県農業会議
和歌山市市茶屋ノ丁2番1
和歌山県自治会館6階
073・432・6114
滋賀県支局　077・523・2439
京都府支局　075・441・3660
大阪府支局　06・6941・2701
兵庫県支局　078・391・1221
奈良県支局　0742・22・1101